

工学研究科 修了者のキャリアパスの事例

建設工学専攻は、社会基盤整備に深く関わる社会環境系と建築系において、豊かな社会と快適な環境の形成に向けた教育・研究を行っている。一方、電子情報生命工学専攻は、「電子」「情報」「生命」の各専門分野とそれらの有機的連携から生まれる未来型産業の振興に貢献する高度技術者の育成を目指す。「光・画像情報処理」「自律移動ロボット」「電子・デバイス」「計算機応用技術」「視覚及び生体情報処理」、「音声及び自然言語処理」、「免疫分子化学」、「染色体ゲノム工学」、「グリーンテクノロジー」といった分野で、専門的な教育・研究を展開している。

本研究科は、各専攻分野で必要とされる基礎的・応用的な専門知識と技術を身につけ、人間社会と地球の未来を見据える広い視野を持った、創造性豊かな研究者・技術者の育成を目標とする。博士後期課程の修了者については、高度な専門知識を活かして新たな研究や技術開発を担う、自立した研究者・技術者として、学術研究の発展と社会課題の解決に貢献できる人材となることを期待している。

開設以来 30 年以上にわたり、本研究科は教育、行政、産業界に多くの有為な人材を輩出してきた。専門分野と直結した業界への就職が多く、企業等に就職を希望する場合は、キャリア支援センターと連携をとって適切な指導・助言を行っている。

修士課程修了後の進路は、民間企業や各種団体、高等学校教員、技術系公務員など多岐にわたる。修士（工学）の学位取得後には、博士（後期）課程への進学や、高等学校教諭専修免許状（工業、建設工学専攻のみ）の取得も可能である。社会人学生の場合、修得した能力を活かして、職場でのさらなる活躍が見込まれる。

博士後期課程修了後は、博士（工学）の学位を取得し、企業における指導的な研究者・技術者、大学や工業専門学校などの教員、あるいは国や地方自治体の研究機関の専門家・技術系職員として活躍することが期待されている。